

中小企業庁発表 4月-6月期中小企業景況調査報告

7月2日に中小企業庁から4半期ごとの中小企業景況調査の結果報告が公表されました。

基調判断は、「中小企業の業況は、一部に持ち直しの動きが見られる。」となっています。しかし、製造業では、マイナス幅が拡大しています。

業況判断DI(前期比季節調整値)では、全産業 - 21.7、製造業 - 20.4、非製造業 - 22.0 となりました。

< 結果のポイント >

- 全産業の業況判断DIは、マイナス幅が縮小した。
- 産業別にみると、非製造業はマイナス幅が縮小したものの、製造業ではマイナス幅がやや拡大した。
- ◇ 2012年4-6月期の全産業の業況判断DIは、(前期 24.2) 21.7(前期差2.5ポイント増)となり、マイナス幅が縮小した。
- ◇ 製造業の業況判断DIは、(前期 19.0) 20.4(前期差 1.4ポイント減)とマイナス幅がやや拡大した。業種別に見ると、輸送用機械器具、鉄鋼・非鉄金属、パルプ・紙・紙加工品など7業種でマイナス幅が拡大し、家具・装備品、化学、窯業・土石製品など7業種でマイナス幅が縮小した。
- ◇ 非製造業の業況判断DIは、(前期 26.3) 22.0(前期差4.3ポイント増)となり、マイナス幅が縮小した。
- ◇ 建設業、卸売業、小売業、サービス業のいずれもマイナス幅が縮小した。全産業の資金繰りDI(前期 20.2) 18.5(前期差1.7ポイント増)、長期資金借入難易度DI(前期 10.8) 10.2(前期差0.6ポイント増)とマイナス幅が縮小し、短期資金借入難易度DIは、(前期 7.0) 7.0(前期差0.0ポイント)と横ばいの動きだった。
- ◆ 今期の基礎素材型3業種(鉄鋼、非鉄金属、金属製品)と加工組立型4業種(機械器具、電子部品・電子デバイス・電子回路、情報通信機械器具、輸送用機械器具)の業況判断DI(前期比)は、マイナス幅が拡大した。これは、円高、原材料価格の高騰などの影響によるものと考えられ、今後の動向を注視していく必要がある。

【製造業】

製造業の14業種のうち、輸送用機械器具で 17.5(前期差 11.4ポイント減)、鉄鋼・非鉄金属で 21.2(前期差 6.6ポイント減)、パルプ・紙・紙加工品で 19.7(前期差 5.9ポイント減)など7業種でマイナス幅が拡大し、家具・装備品で 20.7(前期差9.0ポイント増)、化学で 11.5(前期差8.0ポイント増)、窯業・土石製品で 22.1(前期差7.5ポイント増)、印刷で 30.8(前期差5.6ポイント増)など7業種でマイナス幅が縮小した。

【採算(経常利益)】

全産業の採算(経常利益)DI(「好転」-「悪化」、前年同期比)は、(前期 35.7) 28.1(前期差7.6ポイント増)とマイナス幅が縮小した。産業別に見ると、非製造業で(前期 37.0) 29.4(前期差7.6ポイント増)、製造業で(前期 31.4) 24.5(前期差6.9ポイント増)とマイナス幅が縮小した。

< 詳細は下記ホームページをご覧ください。 >

<http://www.chusho.meti.go.jp/koukai/chousa/keikyo/128keikyo/128sokuhou.pdf>